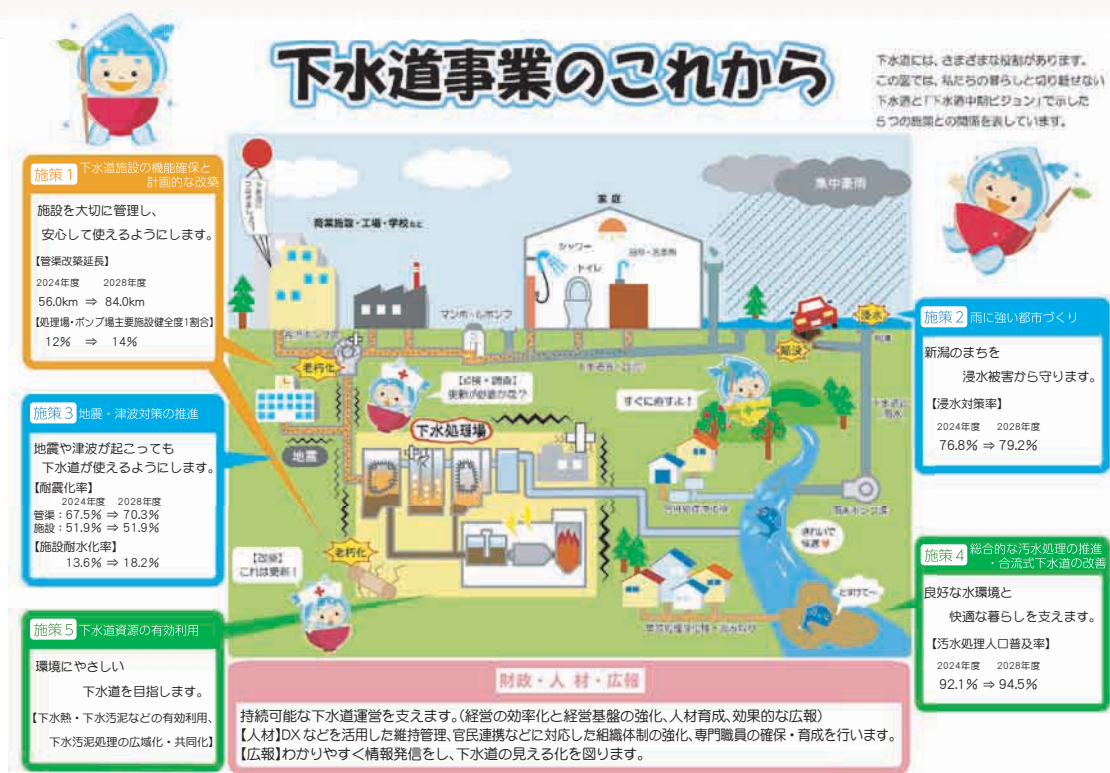


第2次新潟市下水道中期ビジョン

「第2次新潟市下水道中期ビジョン（改訂版）[2024～2028年度]」を策定しました。



新潟市の下水道計画

●下水道の全体計画

	処理区	計画面積 (ha)	計画人口 (千人)
単独	船見	466	29.0
	中部	4,384	216.0
	白根	931	24.6
流域関連	東部	5,122	175.3
	新津	2,128	58.8
	北部	2,926	63.2
	西部	3,000	89.7
	計	18,957	656.6
単独特環	島見	—	—



新潟市下水道キャラクター
水玉ぼうし



名前には、下水道の大切な役割である
「川や海の汚れをぼうしする」
「大雨による被害をぼうしする」という意味が込められています。

※島見処理区の計画面積、計画人口は北部処理区に含まれる

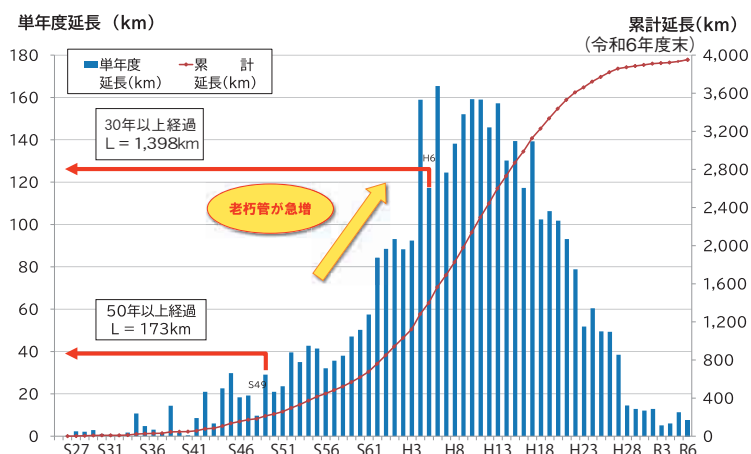
下水道施設の機能確保と計画的な改築

安心・安全で、持続可能な下水道サービスを提供するため、ストックマネジメントによる予防保全型の維持管理へ転換し、施設の計画的な改築により、さまざまなリスクの低減と効率的な施設管理を図ることで、下水道施設の機能を確保します。

●ストックマネジメントの実施

○管渠などの下水道施設の急速な老朽化に対応するため、膨大な下水道施設の状況を把握・評価し、長期的な劣化状況を予測しながら、施設を効率的に管理していきます。

管渠の年度別整備延長



管の破損



管内詰まり（木根侵入）

雨に強い都市づくり

安心・安全な暮らしを守るため、浸水対策施設の整備を進めるとともに、自助・共助対策への支援として、雨水浸透ます設置等の助成制度や浸水ハザードマップを作成し、ハード・ソフト両面からの総合的な浸水対策により浸水被害の軽減を目指します。

●浸水対策施設の整備

鳥屋野・万代・下所島排水区雨水バイパス管下水道工事



- 新潟駅周辺地区の浸水被害の軽減に向け、雨水バイパス管の整備を行っています。
- 今後、整備予定のポンプ場が稼働するまで雨水バイパス管を暫定的に貯留管として運用し早期の浸水軽減を図ります。

●自助対策への支援

浸水ハザードマップ（中央区）



- 防災意識の向上と浸水被害の軽減を目的に、北区、東区、中央区、江南区、秋葉区、南区、西区において、浸水ハザードマップを作成し、本市の地図情報サービス「にいがたeマップ」にて公表しています。

耐震化・耐水化の推進

下水道施設の耐震化・耐水化を進め、被災時にも必要な最低限の機能を確保することで、市民生活に及ぼす影響を最小限に止め、生活基盤である下水道の機能・信頼性の向上を目指します。

●下水道施設の耐震化



プラスチック材による
管渠内の内面被覆

処理場管理本館に
鉄骨ブレース設置

総合的な汚水処理の推進

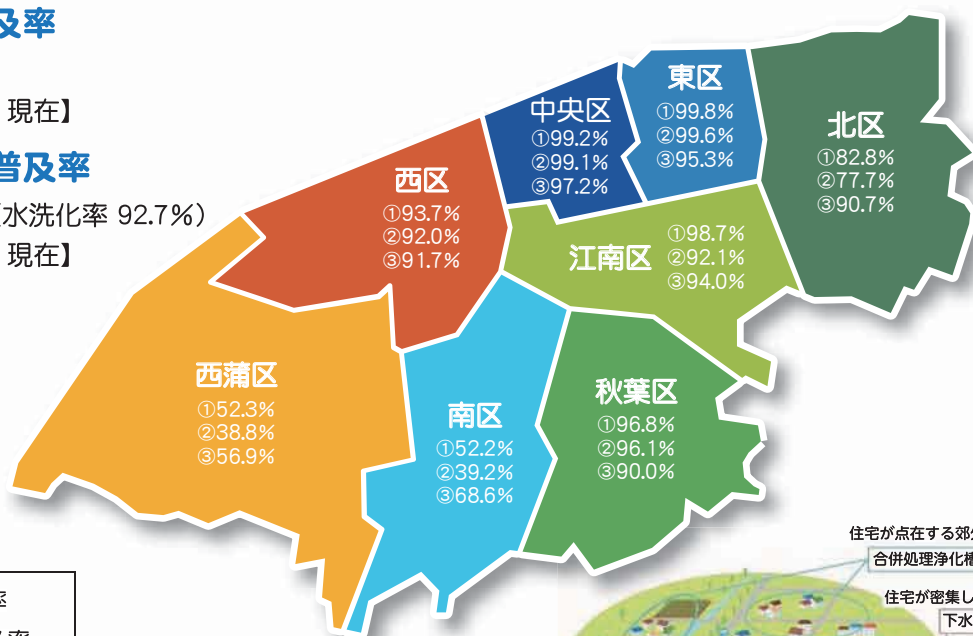
衛生的で快適な生活の確保を目指し、下水道や合併処理浄化槽による総合的な汚水処理施設の整備を行います。

●汚水処理人口普及率

新潟市全域 90.6%
【R7.3.31 現在】

●下水道処理人口普及率

新潟市全域 87.4%（水洗化率 92.7%）
【R7.3.31 現在】



- 凡例
- ①汚水処理人口普及率
 - ②下水道処理人口普及率
 - ③水洗化率*

※水道メーター設置世帯数から算出



汚水処理施設整備の概念図

合流式下水道の改善

処理場の施設改善によって降雨時の汚濁負荷量を削減したり、未処理下水の河川への放流回数を削減することで、河川や海の良い水環境の維持・回復を目指します。

●合流式下水道の改善



合流式下水道の改善イメージ

- 処理場における高速ろ過施設の整備、貯留施設の整備、スクリーンの目幅縮小などの対策手法により、雨天時放流水の水質改善を図ります。

●貯留施設の整備



中部下水処理場 貯留施設

- 降雨初期の雨水とともに未処理下水を一時的に貯留することにより、未処理下水の河川への放流量や放流回数を削減します。
- 中部下水処理場では、汚濁負荷量・未処理下水の放流回数を削減するため、45,750㎡の貯留施設の整備を進めています。

下水道資源の有効利用・脱炭素化の推進

下水道資源がもつ可能性を最大限に活かしつつ、環境にやさしい下水道を目指し、脱炭素化やGXを推進するとともにSDGsの達成に貢献します。

●消化ガス発電の導入



中部下水処理場に導入した消化ガス発電設備

- 消化ガス発電設備は、下水道資源である汚泥から電気と熱を作り出す、地球にやさしい高効率なエネルギーシステムです。
- 中部下水処理場において、下水汚泥を利用した消化ガス発電を平成24年度に稼働開始し、処理場電力量の一部を賄っています。また、発電設備の廃熱を消化槽の加温に利用しています。

●下水熱利用の推進



下水熱を利用した歩道融雪状況

- 下水は、一般に夏は気温より水温が低く、冬は温かいという特性があり、再生可能エネルギーとして、下水熱が注目されています。
- 本市はこれまで、下水熱を利用した歩道融雪施設や空調施設を整備しました。現在は、車道融雪施設を公道上に設置し、研究を進めています。